



THE対談

市川章太郎×佐々木梢

今回は、スタンツスクール創設者の市川章太郎先生と、スタンツ歴18年、2度の産休を経て、現在は2歳児クラスを中心に担当する「こっこ先生」こと、佐々木梢先生との対談。梢先生は昨年より、Youtube「いっちーてれび」のプロデューサーとして、市川先生と共に演者としても活躍中です。

——スタンツとの出会いから、卒業生の話しへ

市川 そもそも18年前、いい先生がいると聞いて、某スポーツ用品店のキッズスノーボードインストラクターだった梢先生を、自分が強引に引き抜いたのがスタンツ先生の始まりだよ(笑)

梢 そうそう、お店に何人か引き連れて、靴買うふりして来ていましたね。接客したこと憶えています(笑)

市川 あれが面接代わり、一発採用でした(笑)

梢 あれから2度の産休を経て現在。あつという間でした。

市川 梢先生自身の、最初の教え子はもう社会人ですね。長年見てきて、何か感じることはありますか？

梢 卒業生たちとはずっと連絡をとりあっているのですが、よそのお子さんと比べると、明らかに生き生きのびのびと育っていて、子どもたちが凄く「子どもらしい」んです！

市川 なるほど、どんな風に？

梢 基本的に自分のことは自分で考えて、しっかり行動していますね。進路に関して、自分の目標や夢がちゃんとあって、それに向かって真っすぐな子が多いです！周りが何と言おうとも突き進む感じですかね(笑)

市川 自分に自信があるんですよね。スタンツでのいろいろな経験の中、乗り越えられる自信や、立ち向かう楽しさを知っちゃったんです(笑)

梢 ある意味戸惑っている？お母さんもいるみたいですが。今度は何を言い出すんだろう、やりだすんだろうって(笑)

市川 親御さんは、「根拠のない自信」って思っているんだろうね。でも、本人たちにとっては、「自分だから大丈夫」という立派な？根拠があるんですよね(笑)

梢 ほんとに活躍している子が多いし、楽しく生きているって感じですね！

市川 コミュニケーション能力が高く、リーダーシップが強くなるので、学級委員や生徒会、部活のキャプテンなどに選ばれた子が凄く多い。

梢 あと学力が高い印象です！難関大学に進む子が多いですよ。自ら会社を立ち上げて、若くして社長さんって教え子もいますね！

市川 ご家庭の環境もあるかと思うけど、幼児期に自然体験で、知的好奇心を満たすってことが、探求心や挑戦心などに繋がっていくんですよね。最近の学術論文でも幾つか発表されていますね。

梢 はい、卒業生を見ていると実感します(笑)

——ここから話題は昨年からはじめたYouTube「いっちーてれび」へ

市川 自分を誘ってくれて、YouTubeを始めようとしたきっかけは？

梢 最初に声掛けた時、市川先生乗り気じゃなかったですよ(笑)

市川 あんまり目立つの好きじゃないんで(苦笑)完全に熱意におされました。

梢 自分の教え子を見ていて、自然体験が成長に深く関わっているのを実感しているんです！その自然の良さをスタンツっ子だけでなく、保護者の方や育児中の方などにも是非伝えたいなって。また、卒業生の子達にも見て振り返ってもらえると嬉しいですよ。

市川 最初は他にもやれる若い先生達がいっぱいいるのになあ、って思っていました。

梢 他の人でも勿論出来ると思いますが、市川先生はスタンツスクールの元祖じゃないですか。やっぱり説得力が違うんですよ！生の姿を伝えてあげたいんですよ。

市川 その言葉に乗っちゃったんだよね(笑)

梢 実際に1年やってみてどうですか？

市川 自分は少し離れた立場でスタンツを見ているので、映像という形で自然の良さを直接伝えられるのは新鮮さがあるっていいですね。多くの子もたちや保護者の方からも、「観ているよ」、「勉強になります」って声を頂けるので励みになりますね。やってよかったです！

梢 わぁーよかった！あと、Facebookも市川先生の配信ですよ。

市川 こちらは5年ぐらい前からやっていますね。お陰様で、内外多くの方から反応を頂いています！写真と共に活動の意図や、スタンツの理念なども絡めて発信しています。ぜひフォローしてほしいですね(笑)

梢 これからもどんどん子どもの興味や好奇心、子育てに繋がる配信をしていきたいですね！

市川 そうですね、頑張りましょう！ダラダラと話してきましたが、最後に何か話したいことはありますか？

梢 それがあるんですよ！いいんですか、話しても(笑)卒業生のあるあるエピソードなんですけどお…

——話し出すと止まらない梢先生(笑)。紙面に収まらないので、続きは5月30日配信の「いっちーてれび」にて(続く)



18年前の市川先生と梢先生

大前先生が

子どもの「今」を見つめる

「自信に変えられる先生」



今年度、スタンツ2歳児クラスの担任をさせていただきます、大前智也です。(ともや先生と呼ばれています。)2歳児クラスは、年間めあて「できたをいっぱい」を掲げ、スタンツの生活の中や自然の中で生まれた、子どもたちの一つひとつの「できた」に共感し、その積み重ねから、子どもたちの自信に繋げることを大切にしています。

スタンツなど、センターで行っている多くの教室の舞台は、森や山、川などの「自然」です。「自然」は、子どもたちに「自信」を与えられる最高の環境です。それ以上に大切なのが、その「自信」を最大限引き出してあげられる、僕ら先生です。

「大好きな先生」からの関わりや言葉がけは、大きな「自信」に繋がります。子どもたち一人ひとりにとって、僕がそんな存在でいられることが、とても大切だと思っています。

そのために、日々意識して子どもたちと関わっていることが、4つあります。

①スキンシップを大切に！

頭をなでる、背中をさする、手を繋ぐ、だっこする。言葉に加え、スキンシップによって子どもたちは心が満たされます。

②ゆっくり話を聞いてあげる♪

話を聞いてあげること「大切にされている」と実感できます。月齢が小さな子で、話を自発的にしてくれることがない場合は、どんなことを今考えていて、声に出したいのだろうと考え、その言葉を代弁してあげるようにしています。

③子どもたち一人ひとりの個性を認めてあげる！！

子どもたちの長所や得意なことに着目し、「ありのままの君でいい」と認めてあげる。

④最後は、僕自身が「自信」を持って子どもたちに関わる♪♪

自信満々な先生だったら、子どもたちも根拠のない自信が湧いてくる気がします。

子どもたちにとって、「大好きな先生」となり、日々の「できた」を大きな「自信」に変えていきます。

中野

が遊びで育む ココロとカラダ

「子どもたちとのふれあい(スキンシップ)」



早いもので、スタンツの仲間に入れていただいて3年目に突入します。今年も変わらず気合を入れて、全力100%で臨んでいこうと思います。

さて、今回は、私中野が子どもたちとの遊びに関わる中で、意識していることについてお話いたします。それはズバリ…「子どもたちとのふれあいを多くすること」です。この「ふれあい」とは、言葉と交わって話をすることや、だっこや肩車、おんぶなどのスキンシップをとることです。今回は、スキンシップをメインにお伝えいたします。

自分自身、スタンツの先生の中ではスキンシップが多いと思います。中野が、子どもたちをだっこやおんぶする光景を、目にされることがよくあるのではないのでしょうか。中野は、初めてスタンツの先生になった時から、スキンシップをよくとることを心がけています。

子どもたちとの信頼関係を築くにあたって、1番大切なことは、「自分は子どもたちにとって、安心できる、落ち着ける先生だぞ!」ということを知ってもらい、スタンツが落ち着ける場所だと実感してもらおうことだと考えています。言葉でのやり取りに加えて、直接的で分かりやすい愛情表現として、だっこやおんぶをして、子どもたちとの関わりを多くとっています。原っぱで大の字に寝転んだ中野のおなかに、子どもたちが上ってきてくれることは、その子どもが中野に心を開いてくれた証だと思います。

このように、子どもたちとスキンシップをとり、ふれあう中で信頼関係を作り上げ、お互いに楽しく、思い切り遊ぶことができる環境を作ろうと心がけています。

これからもこの「スキンシップ」を大切に、あらゆる場面で子どもたちと向き合っていこうと思います。中野のスキンシップに年齢制限は設けていません。大きくなって、肩車してほしい子どもたちは、ぜひ中野のところまで走ってきてください(笑)

精一杯走り続けますので、見守ってくださいと嬉しいです。

佐藤が

思う! 「遊び」と「学び」は一对!

「なんで勉強するの?」



こんな質問を子どもたちからされたことはないでしょうか?私も小学生、中学生の頃にそんな疑問を抱いていました。自分の親に聞くと、「自分が将来なりたい仕事に就くためだよ。」と言われましたが、当時の私は全然ピンときませんでした。

社会人になり、様々な経験をさせていただく中で、「なんで勉強するのか?」の、自分なりの答えに辿り着くことができたように思います。それは、【自分の選択肢を増やすため】。これが今の私なりの回答です。正直、勉強をやらなくても死ぬことはありません。勉強をやらなくなったらやらなくてもいいですが、勉強をすることで、どんな未来が待っているかを、大人が示してあげる必要はあると思います。

具体的に選択肢を増やす事がどういうことかという、サラリーマンになる選択肢しかなくてサラリーマンを選ぶのと、プロ野球選手か社長かサラリーマンになれる可能性があって、サラリーマンを選んだ場合、どちらの方が幸せなのか、ここで重要なのが【選ぶ】ということです。人間の選ぶときの心理は、自分のやりたいことや好きなこと、なりたいたい人物像などを色々な角度から想像して、自分のなりたいたい職業を決めます。一度きりの人生を楽しむために、選択肢をいかに増やしてあげるかが、我々大人の使命だと思っています。

もちろん、勉強がすべてではありません。お友達との関わりの中で、コミュニケーション能力や競争心を、学びや遊びの中で、想像力や好奇心、自立心を育みます。スタンツ小学校は、基本的には、自然を舞台におもいきり遊ぶことに重きをおいていますが、勉強もサポートしていきたいということで、学習塾のMEIKYOがあったり、平日の夕方にある宿題サポートという時間を設けていますので、ぜひ有効に活用していただけたらと思います。

ちょいすたプレストからお知らせです。遊びと学びを両方取り入れた欲張りな企画を、5月23日(日)に実施します。詳細は別途お知らせします。

川合がお届けする

「センター」×「わくわく」= ?

今回のわくわくは「習い事」をピックアップ!



2021年の「子どもの習い事ランキング」はこちら! 第5位英語、第4位音楽教室、第3位通信教育、第2位学習塾、そして第1位は水泳。2020年から小学校で英語が必修化となり、その影響もあるのか、英語・英会話が人気なようです。

さて、名古屋教育文化センターにも、年少~高校生までが対象の習い事があります。しかし、先ほどのランキングに入っているものは「学習塾」があるだけで、その他の教室はありません。今後の習い事を作っていく中で、人気の習い事には常にアンテナを張りながら、名古屋教育文化センターらしい習い事ができると良いですね。

大人の習い事も増えてきていますね。自分自身も最近「ドラム教室」に通い始めて、週に1回仕事も忘れてドラムを叩いています。この習い事、体はもちろん心のリフレッシュにもなるなど、最近感じています。忙しい日常の中で、考えることも増えてきます。しかし、考えることにも限界や、アイデアが出なくなることもあります。そんなときに時間を作り、無心に音楽に合わせてドラムを叩く。終わったあとは足はパンパンですが、少しリフレッシュしたような、スッキリした感覚を味わうことができます。

そんな「リフレッシュ」、大人はもちろん、子どもたちにも大切ですよ。習い事に通うのにはそれぞれの理由があります。将来的なスキルアップのため、学力アップのため、体を鍛えるため、好きを見つけるため。センターの様々なプログラムに通う子どもたちと関わっていても、プログラムによりその思いを感じられます。

小学校の部活の縮小化。子どもたちの遊べる環境の減少。様々な要因が重なる現代ではありますが、そんな中で、子どもたちが行かされるのではなく、「行きたい」と強く思えるように。

子どもを育てる! から子どもが育つ! そんな環境を作っていこうと思います。